

コロナ禍における音声収録に関するアンケート調査*

○北村 達也 (甲南大) 高野 佐代子 (金工大) 石本 祐一 (国語研)

1 はじめに

本稿では、音声研究委員会幹事団が実施した、コロナ禍における音声収録への影響に関する調査について報告する。音声収録は音声研究にとって重要な作業の1つであるが、COVID-19は飛沫感染および接触感染により拡大するため、マスクなしでの発声には十分な配慮が必要である。そのような中、個々の研究者がどのように考え、対応しているかを共有し、研究発表会にて議論することには意義があると考えられる。

2 調査方法

音声研究者メーリングリストにてアナウンスし、オンラインフォームにて以下の7つの質問に回答していただいた。回答期間は2021年10月11日から11月3日までの約3週間である。

- 問1** COVID-19感染拡大以前、あなたの研究・開発活動の中で音声を収録することはありましたか？
- 問2** 2020年1月時点で、2020年2月以降の音声収録を計画していましたか？
- 問3** COVID-19感染拡大以降からワクチン接種開始までの期間(およそ2020年2月から2021年4月)、音声収録を行いましたか？
- 問4** 問3にて「音声収録を行った」とご回答された方にうかがいます。COVID-19感染拡大以降からワクチン接種開始までの音声収録にて採られた対応にチェックしてください。
- 問5** ワクチン接種開始(およそ2021年4月)以降、音声収録を行いましたか？
- 問6** 問5にて「音声収録を行った」とご回答された方にうかがいます。ワクチン接種開始以降の音声収録にて採られた対応(あるいは今後採る予定の対応)にチェックしてください。
- 問7** コロナ禍の音声収録についてご意見がありましたら自由にご記入ください。

問4、問6では複数の選択肢を示し、選択していただくとともに、「その他」という自由記述欄を設けた。

3 調査結果

上記の調査期間に46件の回答が得られた。問1、問2、問3、問5に対する回答の決定木を図1に示す。また、問4、問6に対する回答を表1に示す。問1より全回答者48名のうち40名(87%)が従来から音声収録を行っており、多くの音声研究者にとって音声収録は欠かせない作業であることがわかる。また、問2より感染拡大前に音声収録を実施していた人のほとんど(37名)は2020年2月以降の音声収録を計画していた。しかし、これらの人のうち実際に収録を行ったのは27名で、計画通りに研究が進まなかった状況がうかがい知ることができる。著者らは、ワクチン接種開始以降は音声収録を再開した人が多いと予想していたが、状況はさらに悪化し、全回答者のうち音声収録を行ったのは21名(52.2%)まで減少していた。これはこの期間の感染急拡大や緊急事態宣言の影響を受けているのであろう。

音声収録時の対応(問4、問6)はワクチン接種開始前後で大きな違いはない。多くの回答者が、話者-作業員間に十分な距離を確保し、入室人数を制限し、機材等を消毒していた。一方で、話者にマスクを着用させた人、話者-作業員間にパネル、シートを設置した人は少なく、恐らくこれらの音響的影響を避けたものと考えられる。

上述の通り、問4、問6では自由記述による回答も受け付けた。その中には機材を話者に送付するなどして収録をリモートで行ったり、クラウドサービスを利用したりしたとの回答が複数見られた。リモートワークやリモート講義が推奨される中でやむを得ずそのような方法が採られたのであろう。その他、日本生理心理学会の感染予防対策[1]を参考にして対応したとの回答もあった。緊急事態宣言下での収録は控えたとの回答もあった。

問7の自由記述欄には以下のようなコメントがあった。

- 消毒と換気に注意している。
- 音響分析しない音声はマスク着用のまま収録した。

*Web survey on recording of speech data in the COVID-19 pandemic by KITAMURA, Tatsuya (Konan Univ.), TAKANO, Sayoko (KIT), and ISHIMOTO, Yuichi (NINJAL).

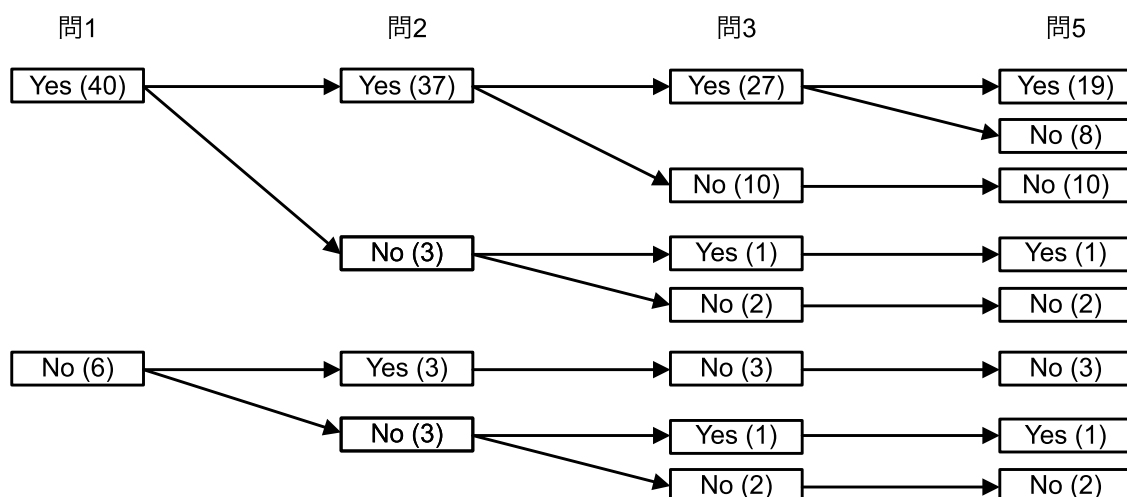


Fig. 1 Decision tree of answers of questions 1, 2, and 5. Numbers in parentheses are the number of the answers.

Table 1 The number of answers for questions 4 and 6 (multiple answers allowed).

選択肢	問 4	問 6
話者にマスクを着用したまま発声させた	3	3
話者-作業者間にパネル, シート等を設置した	6	4
話者-作業者間に十分な距離を確保した	16	15
入室人数を制限した	21	15
収録前, 後, あるいは両方に機材等の消毒を行った	16	14
話者をワクチン接種を済ませた人のみとした	—	2

- そもそも大学等の建物に入られなかった。
- 対象が高齢なので再開の判断が難しい。
- 感染の恐れがあるため音声収録を再開できない。
- どのような状況になれば安心して収録をお願いできるのか判断できない。
- 学会から何らかのガイドラインを出してほしい。
- 実験に関する倫理審査でも感染予防対策について問われるようになった。

自由回答欄ではガイドラインに関するコメントが多かった。これに関しては日本生理心理学会 [1] や日本音声製作者連盟 [2] の対応が参考になる。

4 おわりに

本稿では音声収録に関するオンラインアンケートの結果について報告した。今後も学会員の皆様と情報共有するとともに、他の研究委員会や

関連学会と連携し、感染リスクの低い音声収録について議論を続けていく必要がある。なお、本稿に示したデータは学会誌 78 巻 4 号に掲載予定である。

謝辞

本調査にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

参考文献

- [1] 日本生理心理学会 COVID-19 感染予防対策ワーキンググループ, 生理心理学の実験における新型コロナウイルス感染症の予防対策. 生理心理学と精神生理学, 38, 59–68 (2020).
- [2] 日本音声製作者連盟, 音声制作における新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン (第 1 版), <https://onseiren.com/information/777.html> (2020).